

鈴木秀隆(環境科学科3年)・村山史世(地域環境政策研究室)

研究の背景と目的

Science Shopでは、地域の人々の課題を彼ら自身が解決できるように学生がSDGsを活用して支援します。

今回は、県立相模三川公園(海老名市)で、同公園の指定管理者である(公財)神奈川県公園協会と協働で、iNaturalistを活用したワークショップを企画・実施しました。

iNaturalistは、生物多様性情報のオンラインソーシャルネットワークです。身近な動植物の写真や音声データをスマホアプリから入力し、世界中のユーザーと共有できるデジタルプラットフォームです。

iNaturalistの使い方を公園の利用者に伝えて、公園の生き物の記録を続けてもらうことが今回の研究の目的です。



研究・調査方法

公園には日常的に動植物を写真で記録している利用者がいますが、彼らはiNaturalistも知らなければ、デジタルにも詳しくありません。そこで、大学生と一緒にiNaturalistを使って生き物を記録するワークショップを企画し、2024年11月24日と2025年に3月9日に実施しました。

参加者には、アプリの操作性や楽しさについてアンケートで評価してもらいました。

結果

Naturalist上にプロジェクトを作成し、スタッフ・参加者に入ってもらいました。

プロジェクトの統計によると、11月24日は1日で207件の観察記録、118種類の生き物が確認されました。観察する楽しみが増えたなどのアンケート結果が得られました。

3月9日では、154件の観察記録、85種類の生き物が確認されました。操作が簡単で楽しい、是非継続していきたい、生き物を探してアップするのがとても楽しかったなどのアンケート結果が得られました。



考察・これから

この2回のイベントを通して、このアプリは、生物多様性を身近に感じるツールとして十分に機能することが分かりました。

そして、2025年5月19日時点で773件の観察記録、374種類の生き物が確認されており、公園利用者や公園管理者が生き物観察を継続していることが分かります。

今後は、単発イベントに大学生が酸化することで相模三川公園の利用者と交流することで活動を活性化したいと思います。



現在のプロジェクト状況